

NIPPONJIN NO WASUREMONO 第2部 忘れもの 51

対談 伝統芸能



升田 高寛氏
株式会社東急文化村代表取締役社長

ソフト・パワーによる善なる魂の復活を

伝統に息遣いを加え、心に響く表現を

升田高寛氏



フラメンコダンサー・振付師
マリア・パヘス氏

「100年先を見据えた上で、至高の芸術が洗練された観客とともに、見事に溶け合う場」として、東京都渋谷区に心をこめて創り上げた東急文化村は、当時としては日本初の複合文化施設で、来年25周年を迎えます。国際社会は経済力、軍事力といったハードパワーで全てを制覇できるという未熟な考えがまだ残る中、このままでは人類は滅亡に近づくのではないかと、私は強い危機感を抱いています。今こそ、文化、芸術などを中心としたソフトパワーにより、世界中の人たちが忘れてかけている、本来人類の持つ善なる魂(魅力や感動で動く心)を復活させる必要があるのではないかと考えています。個人主義ではない、日本人の根底に流れる他人を思いやる「利他」「道徳」の精神と、伝統文化、芸術が世界平和構築の一助となることを切に願っています。いかがでしょうか。

身は常に肝に銘じて舞台に立っている。西欧諸国では、先人の残してくれた良き過去を、おさなりにする傾向が強いのですが、日本では、能、歌舞伎、俳句、工芸といった伝統を大切に伝承されていることに敬意を表します。

升田 ●日本文化を評価いただき、ありがとうございます。残念ながら、まだまだ日本の伝統が世界のの人々に知られていないし、国内でも、失われた20年に育った若者たちは、人間の心の奥底まで響く和の技の持つ素晴らしい伝統に触れるチャンスを与えられないこともなく、上滑りな文化、芸術もときに流れてしまう危険性が散見されます。京都商工会議所では、京都1200年の歴史を基に完成された、伝統と文

化、技能などを世界に紹介する文化発信事業を実施していると考えています。私も東急文化村のある東急の持つグローバルパワーを活用し、及ばずながらも手伝えたいと思っています。例えばパヘスさんにはぜひ、西陣織の衣装をまとうて舞っていただくなど、世界中で日本の伝統技術の美しさを紹介していただければと思います。

パヘス ●今回、京都に立ち寄り、伝統技術の素晴らしさを実感しました。機会があれば、西陣織の衣装を着用した舞台も実現してみたいと考えています。伝統の根幹部分をしっかりと次世代に継承するが、今を生きている私たちの責務です。ただし、伝統をそのまま現代人に鑑賞してもらおうだけでなく、それは単なる考古博物館のものにしかすぎません。私たちが芸術家は、伝統に現代の新しい息遣いを加え、その時代を生きていく人の心に響く表現をしなくてはなりません。

フラメンコは、伝統芸能の多くがそうであるように、伝承に基づいて現代まで伝え続けられています。日本の能、歌舞伎も同じですね。口承のエッセンスだけは守り続け、いかに新しい要素を加えて現代人に喜んでもらえるか。私が新しい演目を作成するときの大きな課題です。

升田 ●昨年亡くなった歌舞伎の中村勘三郎さんは、伝統だけに甘んじていたら必ず衰退すると思うから、東急文化村のシアターコクーンで、古典歌舞伎の解釈「コクーン歌舞伎」を上演するなど、常に新しいことに挑戦されているのだらうと思います。ただ新しいこと、新しい「かぶく」時代即ち時代を表現する、歌舞伎の原点に立ち返る活動ではないかと感じます。

●まずだ・たかひろ
1957年、東京都生まれ。79年、慶應義塾大工学部卒。同年、東京急行電鉄株式会社入社。2012年6月、株式会社東急文化村専務取締役、東京急行電鉄株式会社グループ事業本部副部長に就任。今年4月から現職。東京急行電鉄株式会社営業本部副部長、東急グループ営業戦略会議議長を兼任。

●マリア・パヘス
スペイン・セビージャ生まれ。4歳でダンスを始め、アントニオ・ガデアス舞踊団、マリオ・マヤ舞踊団などで主演ダンサーとして活躍。96年「アンダルシアの犬 プルレリアス(嘲笑)」で、コレオグラフィ―国家賞を受賞。スペイン舞踊界最高の栄誉ともいえる、ナショナル・デ・ダンツァなど受賞多数。



自ら制作したフラメンコ舞踊「ユートピア」を舞うパヘス氏。(今年5月、2年ぶり16回目となる来日公演を開催)

来持つ価値観を再評価する心をよみがえらせてもらいたいという思いから、私が創作した演目です。文化、芸術、伝統芸能は、経済力では決して成し得ない、古来、培ってきた人間ならではの魂を復活する活動だと思っていて、私自身も大切にしたいと思っています。

パヘス ●サパテアトは、まさに大地を打ちながら、フラメンコの大事な技法です。日本では、喜多川歌麿の浮世絵表現、松尾芭蕉の俳句など、現代でも十分世界に通じる伝統芸能があることを、うらやましく思います。

私は今、女性の世界を表現する舞踊の創作に着手しており、この中に和のエッセンスも取り入れてみたいと考えています。日本の伝統に根差した芸術活動が、フラメンコとともに、世界のイニシアチブを取ることに期待しています。

●コーディネーター
京都新聞総合研究所特別理事
京都産業大学教授 吉澤健吉

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千の年を、京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)



きょうの季節せ(六)月
鮎(あゆ)かけ
逃げし鮎を
見付たり
西山治雲

「きょうの心伝て」
小畑 弘
農家(南丹市美山町)65歳

一握りの土
明治生まれの祖母と暮らしたのは、たった15年ほどであったが、几帳面な法律家性格のように思えた。15年戦争が徐々に激しさを加え、食糧増産、戦後の守りが声高に叫ばれる時代であったので、余計に、質素倹約を私たちが孫に伝えてくれたのである。そんな中で、今でも忘れられないのは「下草一束で土一握りだ」という、田や畑の土を外へ持ち出すことを強く諫めていたことである。

夏の暑い最中、山麓の芝刈り山で隔年に刈取る灌木をそのまま乾燥させて家へ運び、牛舎の敷草としてそれが貴重な堆肥となり、農地の唯一の肥料として大事にされた。このようにしてきた農家土に土を粗末にしなければ、それにひきかえ、農機具が大形化し容積が土が農道などに散乱している今日、祖母が生きていた土に嘆くであろう。

私はこの一言が70有余年頭から離れず、土を大事にしながら、先祖から受け継いだ農地を大切に農業に精を出している。

「きょうの心伝て」
●あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか?暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の系譜や、伝えたい京都に残る心遣いをお寄せください。京都新聞社にて選考、送附する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内)、郵便番号、住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞COM「きょうの心伝て」係まで。
E-mail: wasuremono@nhkkyoto.co.jp
●日本人の忘れもの第2部のバックナンバーは、京都新聞ホームページでご覧いただけます。
http://kyoto-njp.jp/kyo_np/info/new/

世界遺産 下鴨神社を隣にのぞむ
情緒あふれる 美しいたたずまい

「下鴨茶寮 夏の清涼懐石」
若鮎や鱧、賀茂茄子など、旬の風味満載の全9品の
本懐石を期間限定でご用意
お庭をのぞむ個室で、こゆるりとお楽しみくださいませ

お一人様 一〇,〇〇〇円 (税別) (送料別)

特典
4名様以上でご予約の場合、フリードリンク8種(2時間)を
夏季の特典としてお付けいたします。

期間
6月17日(月)～8月31日(土)

ご予約
前日までの要予約
8月16日は除きます

※営業時間/午前11時～午後9時 定休日/毎木曜日
※食材の仕入れ状況により、献立を変更する場合がございます。
※予約状況により個室席をご用意し兼ねる場合がございます。ご了承くださいませ。

献立
先付 ほうおずき盛り
椀物 鱧葛叩き
向付 青柚子の香り
焼物 鮮魚のお造り盛り合わせ
揚物 若鮎塩焼き
煮物 賀茂茄子と鴨丸の煮おろし掛け
酢物 太刀魚とずいき
鉢物 酢橘のジュレとともに
食事 釜炊き御飯
デザート 抹茶プリンと季節の果物

創業 安政三年
京都 下鴨茶寮
茶懐石 京料理 京懐石
本店/京都市左京区下鴨宮河町62番地下(鴨神社東横)
電話 075-701-5185